

HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第2660地区)

WEEKLY BULLETIN

No. 24

東大阪中央ロータリークラブ

創 立 昭和47年2月20日
例 会 日 毎週月曜日 12:30~
例会場所 シェラトン都ホテル大阪
事 務 所 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-38
〒543-0027 ロイヤルパークス桃坂1112号
TEL. 06 (6772) 2320
FAX. 06 (6772) 2327
E-mail: hcrc@at.wakwak.com



会 長 百 濟 洋 一
会長エレクト 切 石 博 之
副 会 長 瀧 田 浩 彦
幹 事 三 木 武 志
会報委員長 福 岡 康 民

THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS

ロータリーの未来はあなたの手の中に

2009~2010年度 国際ロータリー会長 ジョン・ケニー

第 1754 回例会 平成 22 年 2 月 8 日 (月曜日) 第 24 号

本日の例会

2月8日(月)第2例会

- ◎ソング 「四つのテスト」
◎新入会員入会式 和田吉成様
◎卓 話 「科学の話 超臨界流体とその応用」
ゲストスピーカー
元通産省工業技術院 大阪市立大学教授
高温高压流体技術研究所 所長 小郷良明様
(担当:近藤 力会員)

◎本日の献立 フランス料理

次回の例会

2月15日(月)第3例会

- ◎卓 話 「紙の歴史と現状」
(担当:宮崎康治会員)

◎本日の献立 フランス料理

前回の例会記録

2月1日(月)第1例会

◎ビジター 大阪東RC 佐々木恭一氏

会 長 挨 拶

会長 百濟洋一

ロータリー2月は世界理解月間ですので、米山奨学会についてお話をさせていただきます。

米山奨学事業は、日本最初のロータリークラブの創立に貢献した実業家、米山梅吉氏の功績を記念して発足しました。1952年に東京ロータリークラブで始められたこの事業は、やがて日本の全クラブの共同事業に発展し、1967年、文部省(現在の文部科学省)の許可

を得て、財団法人ロータリー米山記念奨学会となりました。

米山梅吉氏(1868~1946)は、幼少にして父と死別し、母の手一つで育てられました。働きながら勉学し、20歳で米国へ渡り、8年間の苦学の留学生活を送りました。帰国後、三井銀行に入社し、信託業法が制定されると逸早く信託会社を設立して、新分野を開拓しました。晩年は財団法人三井報恩会の理事長となり、ハンセン病・結核・癌研究の助成など多くの社会事業・医療事業に奉仕しました。“何事も人々からしてほしいと望むことは人々にもその通りせよ”これは米山梅吉氏の願いでもあり、ご自身の生涯そのものでした。“他人への思いやりと助け合い”の精神を身をもって行いつつ、そのことについて多くを語らなかった陰徳の人でした。

なぜ留学生支援なのかと言いますと「今後、日本の生きる道は平和しかない、それをアジアに、そして世界に理解してもらうためには、一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築くこと。それこそが日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか」。事業創設の背景には、当時のロータリアンのこのような思いがありました。

幹事報告

幹事 三木武志

1. 本日例会終了後、3階春日の間にて第4回クラブ協議会を開催致します。理事、役員、各委員会委員長には宜しくお願い致します。クラブ協議会終了後、引き続き第8回定例理事・役員会を開催致します。

2. ロータリー米山記念奨学会より特別寄付金・個人寄付分につきまして確定申告用領収証がきていますので、ポストに入れております。

出席報告	金子(勝)委員
本日の会員数	41名
本日の出席者数	29名
本日の出席規定適用免除会員	15名
本日の出席率	85.29%
1月18日の修正出席率	94.44%

SAAニコニコ箱 大石副SAA
 百済会長 写真ありがとうございます。
 三木幹事 2月はよい月で有りますように！写真有難う御座居ました。
 森 会員 写真有難うございました。
 松岡会員 クリスマス会の写真を親睦の皆さま、ありがとうございました。

2月のお祝い

入会記念日 黒田 西村(典) 郷田 林 坪倉
 金子(誠) 佐井(各会員)
 会員誕生日 瀧田 坪倉 木村 有江(各会員)
 夫人誕生日 坪倉 道子様 宮崎 悦子様
 松岡 尚美様 金子 桂様
 結婚記念日 林 湯谷 木村 宮崎 松岡 佐井
 (各会員)

○1月の内祝ニコニコ 累計 760,000円
 ○1月のニコニコ箱 38,000円 累計 331,000円
 ○1月の米山BOX 3,569円 累計 71,131円

委員会報告

米山記念奨学会 委員長 松岡 武
 2009~2010年度米山記念奨学会寄付
 普通寄付 上期 2,500円×41名 102,500円
 下期 2,500円×41名 102,500円
 合計 205,000円
 特別寄付 50,000円×1名 50,000円
 (2010.01月現在) 20,000円×31名 620,000円
 15,000円×1名 15,000円
 合計 685,000円

2009-2010年度目標額 15,000円×会員数(42名)
 630,000円
 特別寄付目標達成

普通寄付 205,000円 + 特別寄付 685,000円 = 890,000円
 会員一人当たり 890,000円 ÷ 41名 = 21,707円
 (一人当たり 20,000円達成)
 皆様のご協力ありがとうございました。

お知らせ

住所変更 細川勝治 自宅
 〒543-0027 大阪市天王寺区筆ヶ崎町6番12-3704号
 TEL/FAX 06-7492-2216

卓話

「63億人の食卓」 有江 健

世界中には約63億人の人々が住んでいます。日本国際飢餓対策機構では、これを「地球家族」と呼んでいます。今日は皆様と共にこの地球家族の大きな問題を共に考えてみたいと思います。この地球家族の約20パーセントが工業先進国(日本、アメリカなど)の人々で、世界中の食糧の80パーセント以上の食糧を消費しており、残りの約80パーセントの人々が所謂「開発途上国」(アジア、アフリカ中南米の諸国)に住んでおり、殆どの人々が貧困家庭の人々です。その中で、一日に一食も満腹に食べられないで、飢餓と貧困に苦しんでいる、約10億人の人々が住んでおり、一分間に約17人(そのうち12人が子供たちです)、一日には約15,000人、一年間には実に1千万人の人々が尊い生命を失っております。ではどうしてこんなにも多くの人々が飢えに苦しんでいるのでしょうか。世界には食糧が不足しているのでしょうか?いいえ!今世界では一年間に19億トンの穀物(米や麦、トウモロコシなど)が生産されています。19億トンの穀物を世界の人口63億人で均等に分けると、一人当たり約300キロです。人が健康を維持していくために必要な穀物は、年間150~180キロですから、穀物だけでも世界の全ての必要量に対して1.7~2倍もあるのです。それではどうして世界には約10億人も飢えに苦しんでいる人々がおり、一日に約1万5千人もの人々が飢えのために死んでいるのでしょうか。それは、約20パーセントの工業先進国(日本や米国など)が必要以上に穀物を消費してしまっているからです。日本は、世界最大の食糧輸入国です。日本が外国から輸入している食糧は約5千800万トンです。これは約3億人分以上の食糧です!!ところが日本国内で年間約1,940万トン、即ち約1億人分以上の食糧が、捨てられているのです!!この事実を直視して、先ず会員の皆様方が、シンプルライフに徹し、ご自分の家の冷蔵庫の中身を点検して、賞味期限切れの食糧を余分に購入して廃棄していないかどうか、率先して、無駄を省いて世界の10億人とも言われている飢餓に瀕している人々の痛みを共有して愛を形に顕して、彼らの尊い生命を救うために、貢献するために行動を起こそうではありませんか。「63億人の地球家族が愛の共同体」として、互いに助け合うことが急務です。印度のノーベル賞受賞者のマザーテレサは「愛の反対は憎しみではなく無関心である」という名言を残しております。あなたはいかがでしょうか。